

林野庁 北海道森林管理局

常呂川森林ふれあい推進センター
令和6年度 年報

オホーツクの「森」から



発行にあたり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園等、自然環境に恵まれ貴重な動植物をはぐくむ地域です。

常呂川森林ふれあい推進センターはオホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、国有林野を活用し特定非営利活動法人等（以下 NPO という）と連携して行う森林づくり等と森林環境教育等森林と人とのふれあい活動の推進を位置づけ活動しています。

この度、令和6年度の主な活用内容をまとめましたのでご覧ください。

目次

森林環境教育～森林と人とのふれあい活動の推進～
国有林野を活用し NPO 等と連携して行う森づくり
活動区域「オホーツクの森」

森林環境教育～森林と人とのふれあい活動の推進～

当センターでは、森林と人とのふれあい活動に取り組んでいます。

○緑と花の市民の会・「緑の募金」街頭キャンペーン

令和6年4月22日、北見市「緑と花の会」主催で、「緑の募金」街頭キャンペーンに参加してきました。

例年、この日に限って寒いという思い出がありますが、やはり当日は花冷えを乗り越えた冷え込みとなりました。

はじめに北見駅前の環境広場で出発式を行い、「緑と花の市民の会」会長と辻北見市長の挨拶を受けたのち、参加した10団体、総勢約60名が、それぞれ持ち場へ移動、ふれセン職員2名オホーツクの会4名の計6名が、ひと区画担当となり参加しました。

寒い日も手伝ってのことか少ない人通りでしたが通行された市民の方からは快く募金をしていただき、この場を借りて感謝いたします。

その後広場へ戻り解散、寒さをカラ元気で吹き飛ばしての募金活動でした。



■寒さをカラ元気で吹き飛ばせ！？

○令和6年度 第18回オホーツクみどりネットワーク全体会議

令和6年5月14日、網走市の北海道オホーツク合同庁舎で「第18回オホーツクみどりネットワーク全体会議」が4年ぶりに開催されましたので参加してきました。

コロナ過ということで4年ぶりの開催となったわけですが、この間、思うような活動ができないことと4年前の経過を思い返しながらの内容なので活発な議論とはいきませんが、昨年の活動状況と決算報告のあと今年度の活動方針、活動計画、「緑化公募事業」の助成金申請と「オホーツクみどりネットワーク」の会費について全体で確認しました。

その後、役員改選を行い新役員紹介し全体会議は終了し、最終プログラムの講演に入りました。

講師はNPO法人増毛山道の会 事務局担当理事小杉さんから『「増毛山道」一筋のこの道を遺したい』と題して話がされました。

増毛山道の歴史、全国の山岳古道、増毛山道を何故再生しようと思ったのか、また再生に至る経過と具体的な再生活動について話と動画で説明がされました。

現在はトレッキングでの活用や山道の維持管理、パネル展（旧増毛小学校に常設）や札幌チカホ等でのパネル展活動を行っているとのことでした。

私費を投じて空中写真での調査を実施するなど山道再生にかける情熱の熱量には熱いものを感じました。

○オホーツク木育の会総会とマイスター交流会

北海道が主体となった木育マイスター制度が平成 22 年度よりスタートし 14 年が経過し各振興局が事務局となり、これまで活動が続けてきたとのことですが、同じような活動を国有林



■会議の様子

でも各ふれあい推進センターや管理署において、森林環境教育ということで取り組んできました。

同様な活動を担う組織が同じ地域でそれぞれに活動をしているなら、オホーツク管内で横の連携をとるために意見交換や交流をしたいとのことでオホーツク総合振興局林務課とオホーツク木育の会から呼びかけがあり、令和 6 年 5 月 20 日、ヤマハミュージッククラフト北海道（旧北見木材株式会社）で場をお借りして常呂川森林ふれあい推進センター、網走南部森林管理署がオブザーバーとして参加してきました。

木育マイスターの会からは 11 名、ヤマハミュージッククラフト北海道から 2 名、オホーツク総合振興局からは 5 名、国有林から 7 名の計 25 名で午前中はオホーツク木育の会総会とヤマハミュージッククラフト北海道の工場見学、午後から同会場で交流会（意見交換）を行いました。

オホーツク管内で活動されている木育マイスターは、自然関係の NPO 法人として日々活動している方と他の仕事をもちながら活動している方がおり、NPO 業務調整や有給等の活用を行って市町村や学校等からの依頼を受け活動されています。

意見交換の内容は、①活動内容の事例、②依頼の内容、③課題、④その他について。

こちらでプログラムを考えなくてはならないとか、木育マイスターの会の認知が少ないのか個人にダイレクトに依頼される、イベントを企画するにあたり、どういった内容が喜ばれるのか、時間の持たせ方は等の意見が出されていました。

国有林への要望として今後もフィールドを活用させていただきたい、一緒にイベントに協力していただきたい等の意見がありましたが、国としての制約もあるので、今後は細かい内容についてお互いにどういったことが可能なのか考えていかなくてはならないし、こういう活動も民国連携が出来ればいいなと感じました。



■意見交換の様子

○網走市主催イベントの支援

6 月 17 日（月）網走市美岬地区国有林において、自然散策ガイドのレクチャーを行いました。

これは、市が主催する春の木育イベントで一般市民を対象に自然散策会を行うことから、イベントスタッフにガイド役の手ほどきをしてほしいとの依頼があり実施したものです。

当日は、市職員を含めた 6 名が参加して「森の巨人たち百選」に選ばれた「美岬のヤチダモ」の遊歩道コースにおいて、樹木の見分け方を中心に自然散策を楽しむ方法を学習しました。



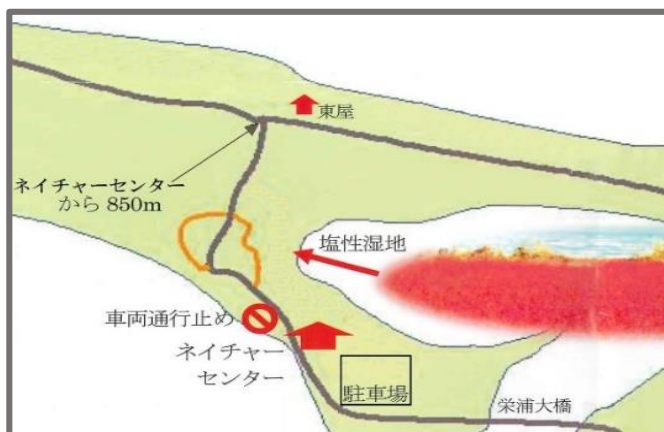
■美岬のヤチダモ、ちょっとだけ！？

○常呂小学校・「ワッカネイチャースクール」

7月2日（火）網走国定公園内のワッカ原生花園において、常呂小学校からの依頼により、網走南部森林管理署若手職員3名の協力のもと常呂小学校3年生20名が参加する自然観察会「ワッカネイチャースクール」を行いました。



■アイスブレイク、緊張とれたかな？



■ワッカ原生花園とネイチャーセンター

最後に出発地点に戻り、子供たちはスクールバスに乗りお別れしました。

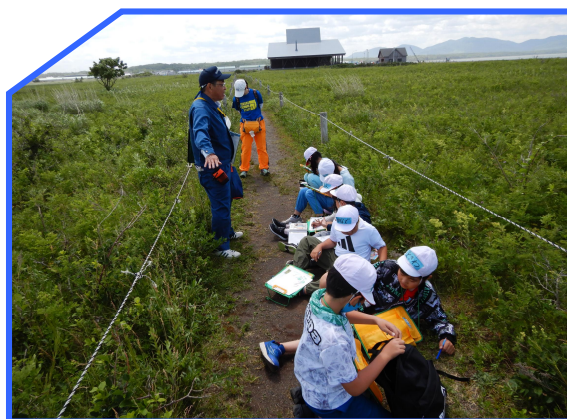
当日の天気は快晴、気温もちょうどよいのですが、やや風が強く子供たちの画板から用紙が飛んで行ってしまうかヒヤヒヤするところもありました。

後日常呂小学校から校長をはじめ携わった教員の方からと、子供たちから自然に親しんだ楽しさに満ちたお礼の手紙をいただきました。

所長挨拶の後、アイスブレイクでじゃんけんゲームを10分ほど楽しみ子供たちの顔がほころんだので、フィールドビンゴの用紙を渡し説明して、早速ビンゴに取り掛かってもらいました。（ビンゴは出発地点から東屋を折り返し終了地点まで通して）

コースはワッカ原生花園施設のサイクリングロードと接続する遊歩道を活用しましたが、現地はサロマ湖の湖口工事の為、関係車両の通行があるので舗装道路ではなく遊歩道でサウンドマップ（自分を中心として聞こえる音をイメージで絵に描いてみること）を行い描いた後に自分に聞こえた音、何の音を描いたのか説明してもらいましたが、ひとりひとりの個性が現れていて「なるほど」と感じました。

再び、フィールドビンゴを再開してビンゴカードにある「黒っぽい花」とか「泡」とかを探し全員、全ビンゴを達成して満足気でした。



■サウンドマップ

ん～～難しいけどなんか、楽しいね♪

○オホーツクの森子ども探検隊



■トランシーバーの関門～隊長どうぞ

11 名が参加。3 班に分かれた子供たちは、隊長役に扮したセンター所長からオホーツクの森探検の指令を受けて、森の中にある五つの謎を解きながらゴールを目指します。



■水辺で涼しく一休み～って言っても 魚にカエル、じっとしてらんないね！

午後からは昔ながらの木のおもちゃパタパタの作成、錯覚を利用したような動きのあるおもちゃの完成に皆一生懸命（サポートの方も）でした。

帰りの時間となり見送りをされた子供の中にはまだ帰りたくないなんて声も上がっていました。

無事に一日を終え、子どもが野山自然に触れさせることの大切さと難しさを改めて実感しました。

7月27日（土）、北見市端野町国有林内にある「オホーツクの森」において、子供たちが自然に親しむイベント「オホーツクの森子ども探検隊」を常呂川森林ふれあい推進センターと森林ボランティア「オホーツクの会」11名との共催で、網走中部森林管理署2名・オホーツク総合振興局2名の支援を受け実施しました。

当日は、一般公募により北見市内の小学校から



■こちらは双眼鏡の関門～よく見えるよ！

もちろん森の中には番人があちらこちらに、安全に探検ができるよう目を光らせ時にはサポートします。

当日は昨年よりは涼しいものの最高気温は28度を超える中、水分補給に気遣いながらも森林探索や川遊びにはいい日和となり、オホーツクの森に潜む16の問いを見つけビンゴ完成に探検ノートとにらめっこ、五つの関門をチャレンジする中で子供たちの歓喜の音がこだましていました。



■パタパタ作成！言うとおりにすればできる、考えちゃダメ～

〇山の日記念「藻琴山森林散策会」

「山の日」を祝日制定された記念として平成 28 年から行っている森林散策会ですが、コロナと悪天候のため開催できませんでしたが、7 年ぶりに藻琴山で開催することができました。オホーツク総合振興局、網走南部森林管理署、常呂川森林ふれあい推進センターの 3 者で運営し、一般参加者とスタッフ含めて、8 月 24 日に総勢 35 名で実施しました。

当日は朝から暑さが厳しかったのですが登山口は標高が高いせいから少し気温が下がり爽やかな感じがしましたが、3 班に分かれてガイドが案内するうち、全員すっかり汗だくになってしまいました。

8 合目の銀嶺水について小休止の後、山頂に向けて 9 合目に差し掛かる手前で急に霧が濃く



■藻琴山森林散策、見て・聞いて・ふれて・感じて！

なり雨が降り出し、見通しも悪く足元も滑りやすくなったので残念ながら、ここで登山中止となりました。

参加者の感想（アンケート）として「頂上まで行けなかったのは残念だけど、色々な草木の名前等をガイドが教えてくれて楽しかった、来年も参加したい」とのことでした。

山頂へ行きたいとの思いが強いのは重々感じていたのですが、もしもの場合を考えての判断でした、何かあってからでは遅いので



■山の天気は変わりやすいつて、身をもって実感、残念です。

参加者全員の安全を最優先させていただきました。

7 年ぶりということで、運営側もほぼ初めての藻琴山森林散策会だったので、何事もなく終了し安堵しております。

また、次年度も開催をという参加者の想いを受け止めてスタッフで検討して参りたいと考えています。



■来年の登頂に思いをはせ記念写真

○森林へおいでよ！パネル展

8月30日（金）～9月8日（日）、北見市緑のセンターにおいて森林ボランティア「オホーツク



■松ぼっくりアート、想像力は無限に広がる

クの会」との共催で、オホーツク地域の森林の魅力を伝える「森のパネル展」を開催しました。

この催しは平成23年から行われており、オホーツクの森に咲く花や野生動物のほか、当センターや「オホーツクの会」の活動内容をパネルにして展示しました。

最終土日の7日と8日の二日間は、「竹とんぼ」、「松ぼっくりアート」、「はっぱのフロッタージュ（葉っぱを色鉛筆でこすりだす）」や森林散策などの盛りだくさんの内容を楽しんでもらいました。

2日連続して来場いただき「松ぼっくりアート」を楽しむ方もいらっしゃいました。

来場者数は、北見市緑のセンター調べで延べ226名とのことで、北見市民だけではなく、遠くは紋別や網走さらには陸別からも来場され「楽しい時間をありがとう」など励みになる多くの言葉をいただきました。

○網走市主催イベントの支援

10月15日（日）、網走市秋の木育イベントで例年では木工クラフトの実施指導も依頼されていましたが、今年は網走市でカトラリーの木工クラフトを行うことになり、ガイドの依頼のみとなりました。当日は、朝から雨模様となり森林散策は中止との連絡がありカトラリー作成のみとしたようです。当日に向け準備を重ねてきただけに残念でした。

○オホーツク総合振興局・木育推進取り組み支援

10月23日（水）、オホーツク振興局から協力依頼を受けて、日本体育大学附属高等支援学校の

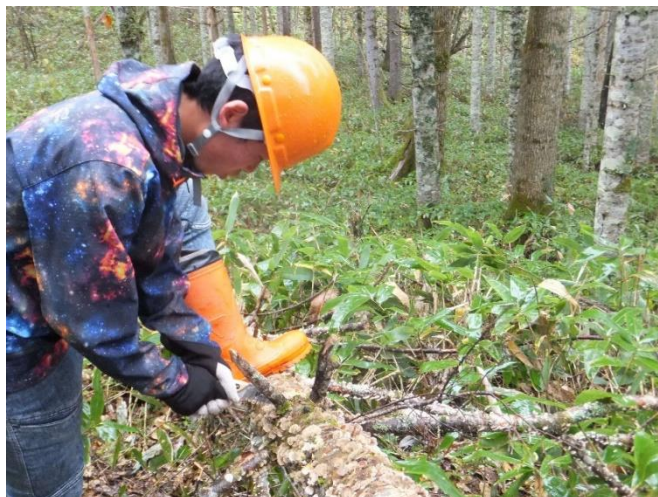


■松ぼっくり拾い 何事も一所懸命です～

1学年生を対象とした「フィールド学習」をサポートしました。昨年までは林業体験としてアカエゾマツの枝打ちを行っていましたが、アカエゾマツ造林地において枝打ちの適地がなくなったため、今年は作業道に落ちている枝などの除去作業となりました。作業内容や注意事項を真剣に聞いた生徒たちは落ちている枝などきれいに片づけました。

また、おとの森の協定者であるヤマハミュージッククラフト北海道から要望があった松ぼっくり拾いも生徒たちは土嚢袋がいっぱいになるまで拾い集めていました。当日は少しずつ雨が強くなる空模様の中、ずぶ濡れになりましたが無事終了しました。

雨脚がさらに強くなったため午後からの森林散策は中止となり、チミケツ湖畔での記念撮影後生徒からお礼の言葉をいただきこの日のフィールド学習は終了となりました。



■倒木・枝の除去処理 安全作業を忠実に

○森林ボランティア・オホーツクの会支援活動

6月23日オホーツクの森において、オホーツクの会による「夏の森林散策会」に支援参加してきました。



■あいにくの天気ですが、ハイチーズ



■「古の森」堪能しました。

当日はあいにくのガス雨交じりの空模様となりましたが、17名参加のもと午前「古の森遊歩道」午後「平安遊歩道」を三グループに分かれ堪能してきました。

雨により足元が滑りやすい林内でしたが事故もなく終わられたことが何よりです。



10月26日(土)、北見市端野町「オホーツクの森」で「オホーツクの会」の炭づくり&色いろ食べ隊をサポートしてきました。

当日は少し天気が悪い中19名(FC2名含む)が参加して、それぞれが持ち寄った松ぼっくりや毬栗やとうきび等々化粧炭にしたいものをスチール缶にいれて薪ストーブで過熱します。

炭焼きが完成するまでは平安遊歩道で森林散策を楽しみ、会員が腕を振るった豚汁などを味わいながら年内最後の会のイベントを楽しみました。



■食欲の晩秋

上記以外にも

R7年3月1日冬の森林散策会（津別・ノンノの森）をサポートしました。

○森林の魅（味）力を感じよう！

今年度については実行体制が整わないため休止としました。

次年度以降については実行体制も含めて検討が必要です。

国有林野を活用し NPO 等と連携して行う森づくり

○自然再生モデル事業企画運営協議会

自然再生モデル事業企画運営協議会は、平成 17 年 10 月に発足しオホーツクの森内「自然再生モデル林」における森林づくりの活動や今後の森林の取り扱いを検討しています。

今年度の企画運営協議会による現地検討会は、常呂川森林づくり塾で自然再生モデル林の樹種転換エリアの現況調査を行い、そのデーターを元に現地検討との予定でしたが、その準備段階で現地に大型の蜂が飛び交うことがわかり、駆除も試みましたが大型のササの茂みにより巣の特定が難しくいずれの取り組みも中止せざるを得ませんでした。

令和 7 年 3 月に自然再生モデル事業企画運営協議会を书面会議で行いました。

○野生生物自動撮影調査

森林総合研究所からの要請に基づき「自然再生モデル林」において野生生物の生息動向を確認するため行われてきました。その後森林総合研究所からの要請も終わりセンターとして独自にその後も続けてきましたが、センターの体制も急速に変化・縮小したことから続けることが困難となり令和 5 年度から休止せざるを得なくなりました。

○オホーツクの森づくり

6 月 16 日オホーツクの森において、一般参加者 10 名と北見林業土木協会 8 名のご協力のもと、「オホーツクの森林づくり」を行いました。

猫の目のように変わる天気予報に落ち着かない日々を過ごしておりましたが、当日は作業日和の天気で、植え付けや表示板設置作業もスムーズに進み早々に終了。



■表示板設置作業、手なれたものです



■補植作業、うまく根付いてほしいものです

少しイベント内容を前倒し早じまいとなりました。

この取り組みは森林に対する理解を深めることを目的として、多様な樹種が混在していたであろう 100 年前の森林を目指して、ストローク人工林の一部に樹種転換エリアを設定し、カミネッコン植樹した苗木の下刈作業と今後の経過をわかりやすくするための標示作業を行いました。

その後の森林散策ではオホーツクの森・平安遊歩道を楽しみました。

○常呂川森林づくり塾

このイベントは、林業体験を通じて森林の持つ役割を理解していただき、森づくりに携わるボランティアの輪を広げることを目的として、9月29日（日）、北見市端野町「オホーツクの森」において開催を予定しました。しかしながらの現地会場準備を進める中で大型の蜂が飛び交うことがわかり、駆除を試みましたが大型のササが生い茂る現地では巣の特定もままならず断念せざるを得ませんでした。

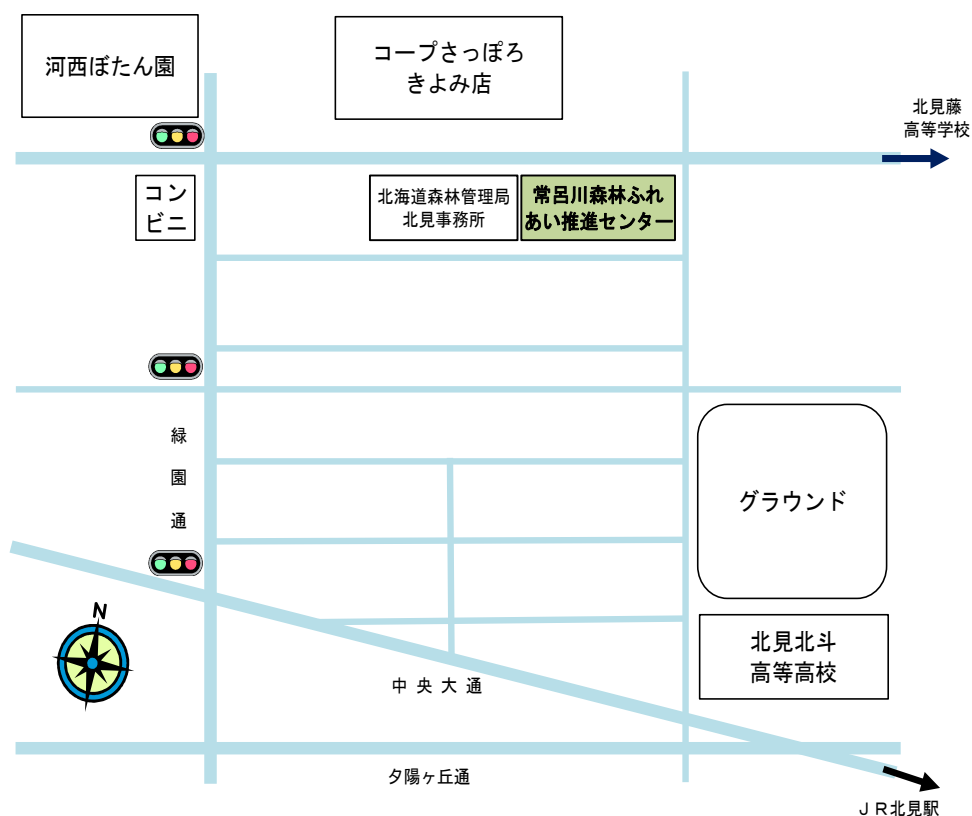
活動区域「オホーツクの森」



この案内図と、現地交差点にある道標の丸数字は、
位置が合致しており、現在地の確認に便利です。

センター所在地

区 間 距 離		凡 例
赤色ルート(①～⑩)	23.1km	古 の 森
青色ルート(⑥～⑨)	7.9km	主 要 道 路
緑色ルート(④～⑫)	6.9km	そ の 他 道 路
黄色ルート(⑫～⑬)	7.9km	オホ・ツクノ森 入口指導標
桃色ルート(⑥～⑫)	1.3km	道路案内図
自然再生モデル林ルート (⑤・⑪・⑫・⑬)	2.3km	位 置 番 号
環境教育実践コース (④～⑪)	2.6km	




 林野庁 北海道森林管理局
 常呂川森林ふれあい推進センター
 〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3
 【TEL】0157-23-2960
 【MAIL】h_tokoro_f@maff.go.jp



表 紙：ワッカネイチャースクールの一コマ